

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0870600384		
法人名	株式会社 ヒューマンサポート		
事業所名	コモドヴィー下館		
所在地	茨城県筑西市二木成1530 (電話) 0296-22-0101		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年1月27日	評価確定日	平成21年5月19日

【情報提供票より】 (平成20年12月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月2日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	24人, 非常勤 5人, 常勤換算 23人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	3階建ての 1 ~ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,750 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (252,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,575 円		

(4) 利用者の概要(平成20年12月12日現在)

利用者人数	25 名	男性	6 名	女性	19 名
要介護1	3	要介護2	5		
要介護3	9	要介護4	4		
要介護5	4	要支援2	0		
年齢	平均 84.1 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下館胃腸科医院、石浜歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同一敷地内に有料老人ホームとデイサービス、訪問介護サービス、居宅介護支援サービスを併設した事業所である。
職員全員が利用者一人ひとりの思いにそった支援を心がけ、職員は利用者や家族から全幅の信頼を得ている。
職員は資格取得を目指し、日々の支援に熱心に取り組んでいる。
施設長は職員から仕事の悩みや疑問をメールで受け付け一人ひとりに返信している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 利用者から寄せられた食事についての意見を給食会議で話し合い、改善に取り組むとともに利用者の能力にあわせ職員と一緒に準備や後片づけをしている。 重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 職員の段階に応じた研修計画を作成・実施し、自信をもって支援ができるよう努めている。 介護計画の作成にあたっては利用者の家族から意見を聴くとともに計画内容を説明し、同意を得ている。 利用者や家族と終末期の意思確認書を取り交わしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を踏まえ、課題を職員会議で検討するとともに改善に取り組んでいる。 自己評価は全職員から意見を聞いて施設長がまとめるとともに、出た意見をサービスの質の向上に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回代表取締役や施設長、利用者や利用者家族の代表、市職員、民生委員、地域の代表を委員として開催し、ホームの理解や協力を求めるほかユニット責任者が利用者の状況報告や運営状況を説明している。 次回の議題を会議終了時に提示し、スムーズな会議の進行に役立てている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 受付に意見箱を設置し家族から意見を汲みあげるよう努めているが、投稿実績がないのでより率直な意見を聞くため年に1回程度無記名のアンケートを実施し、出た意見等をサービスの質の向上に活かすことを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 琴演奏や読み語り、フラダンスなど定期的なボランティアを受け入れ交流している。 月1回無料の床屋が訪問している。 町内会に加入するなど地域での行事に積極的に参加し、地域の人々と交流することを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ご利用者様とご家族、地域の人々とふれあいを大切にします」との地域密着型サービスとしての理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示するとともに申し送り時に全職員で唱和して共有し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	琴演奏や読み語り、フラダンスなど定期的にボランティアを受け入れ交流している。 月1回無料の床屋が訪問している。	○	町内会に加入するなど地域の行事に積極的に参加し、地域の人々と交流することを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を踏まえ、課題を職員会議で検討するとともに改善に取り組んでいる。 自己評価は全職員から意見を聞いて施設長がまとめるとともに、出た意見をサービスの質の向上に活かしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回代表取締役や施設長、利用者、利用者家族の代表、市職員、民生委員、地域の代表を委員として開催し、ホームの理解や協力を求めるほか、ユニット責任者が利用者の状況報告や運営状況を説明している。 会議終了時に次回の議題を提示し、スムーズな会議の進行に役立っている。	○	運営推進会議で外部評価の結果を報告し意見を求めるとともに出した意見をサービスの質の向上に活かすことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告の届出や運営推進会議を通じて市担当者と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に日々の暮らしぶりや健康状態をユニットの責任者が詳しく報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付に意見箱を設置し、家族から意見を汲みあげるよう努めているが投稿実績はない。	○	家族等からより率直な意見を聴くため年に1回程度無記名のアンケートを実施し、出した意見等をサービスの質の向上に活かすことを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所は年2回の人事異動をしているが職員は各ユニットを行き来し、異動による利用者へのダメージを最小限に抑えるよう努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所全体と各ユニットの勉強会を月1回開催している。 採用後は新人研修計画にそってOJTを実施し、自信を持って支援ができるよう努めている。 施設外研修内容を全職員に回覧し共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会などに加入していないが、運営母体全体の組織力で勉強会を開催しサービスの質の向上に活かしている。	○	事業所内で開催する研修会に同業者にも参加を呼びかけるなどで地域同業者と交流することが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者との契約は運営母体の事務所でやっているため、家族の都合等により急遽サービスを開始することがある。	○	事務所と連絡を密にし、見学や体験利用などを行ない利用者や家族が十分納得したうえでサービスを開始することを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の個人シートから経歴を把握し、得意なことや昔の経験を活かし調理や配膳、食器洗いなどを手伝ってもらっている。 また、戦争体験談を聞いたり歌や遊び方などを教わり一緒に楽しんでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はホームでの暮らしが続けられるよう細やかな観察と声かけにより生きがいや楽しみ、得意なことを把握し支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	施設長や看護師、ケア担当でケアカンファレンスを行ったり、利用者や家族から面会時に意見を聞くとともに、アセスメントで明らかになった課題について家族に説明し同意を得て介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は4ヶ月に1回見直すとともに、状態に変化が生じた場合は随時見直しを行い、家族に説明して同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添いは原則的に家族であるが、医療連携している病院へは家族に代わって職員が通院支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前のかかりつけ医への受診の希望をサービス利用開始時に聞きくなど、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス利用開始時では終末期の指針は作成していないが、状態が悪化した場合は対応について家族に説明のうえ承諾書をもらっている。	○	利用者が急変し終末期を迎える場合も想定し、利用開始契約時に終末期や看取りの指針を作成することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員で利用者の誇りを傷つけないよう会議で話し合っている。 職員は個人情報保護法を理解し遵守しているが、面会簿は各ユニットに1冊ずつ置き面会の都度記入する書式であり、プライバシーの保護を徹底するまでには至っていない。	○	面会簿の書式を1人1枚の記入方式に改めるなどプライバシー保護の徹底が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの希望が聞けるよう声かけを行うとともに、意思を伝えられない利用者の場合は家族から意見を聞き希望にそって支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から寄せられた食事についての意見は管理者や施設長、事務局長、デイサービスと有料老人ホームの責任者で構成する給食会議で話し合いサービスの質の向上に活かしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回の利用になっているが汗をかいたときはシャワーなどで利用者の希望にそって支援している。 利用者の状態に応じて同一施設内の機会浴設備を利用して入浴支援をしている。 入浴前にバイタルチェックをしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の得意なことや好きなことを聴き、調理の好きな利用者には味噌汁作りをしてもらうなどの役割をつくっている。 百円ショップで買い物をしたり、菊祭りを見たり、ぶどう狩を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎週水曜日を買い物の日と決め外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	3階は鍵をかけず開放しているが、1階や2階は不穏の利用者や帰宅願望の強い利用者に対応し、見守りができる時間だけ施錠していない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各フロアで月1回避難訓練をしている。年2回全体で避難訓練をしているが、夜間を想定した訓練や地域の人々の参加を得て実施するまでには至っていない。	○	運営推進会議などで地域の人々に避難訓練への参加や緊急時の協力が得られるよう働きかけるとともに、夜間を想定した避難訓練を実施することが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接の有料老人ホームの厨房で作った栄養バランスに配慮した食事を提供している。水分摂取量は個別に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所に続く食堂にソファを設置し、利用者がテレビを観たりおしゃべりをして居心地よく過ごせる共用空間になっている。食堂内に洗面所があり、自分でできる利用者は職員が見守るなか歯みがきをしている。トイレは車椅子の利用者でも十分な広さを確保している。陽射しはカーテンで調節している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時に利用者が使い慣れた食器や戸棚、写真、ぬいぐるみなどを持ち込み、居心地良く安心して暮らせるよう支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。